

フォンス・フローリス古楽院

- 2019年度 講座案内 -

講座の成果を披露します!
フォンス・フローリス発表会
2020年2月11日(火・祝)



*講座内容についてのご質問など、お気軽にお問い合わせ下さい

[申し込み方法] 裏面の申込書にご記入の上、お申し込みください。
または申し込み内容をメールにてお知らせください。

申し込み・問い合わせ先

phone/fax: 04-7140-7225 mobile: 080-5099-3751 e-mail: m-kubota@fonsfloris.com

フォンス・フローリス古楽院

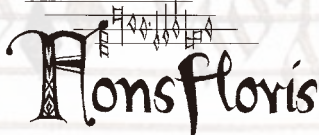
院長:花井哲郎

東京都目黒区中町2-37-24(東急東横線祐天寺駅から徒歩8分)

ウェブサイト <http://www.fonsfloris.com/k/>

講座の会場は古楽院のほか、えびらホール(東急「旗の台」駅から徒歩6分)
または目黒区の公共施設の場合もあります。
会場地図およびアクセス方法については講座お申し込み後にお知らせします。

フォンス・フローリス古楽院は東京のほか関西、名古屋でも開講しています。詳しくはウェブサイトをご覧ください。


主催:フォンス・フローリス



フォンス・フローリス古楽院は、西欧中世・ルネサンス・バロックの時代の音楽を、
主に歌のアンサンブルを中心として実践する人たちのための学びの場です。
古い音楽にふさわしい発声の基本、記譜法、声と声によるアンサンブル、言語の感覚、音楽史の知識、
そして古い音楽の持つ深い霊性と高貴な精神性を、様々な楽曲を通してともに楽しみながら学んでいきましょう。

講師プロフィール

花井哲郎

古楽演奏家。1996年以来ア・カペラの声楽アンサンブルである「ヴォーカル・アンサンブル カペラ」の音楽監督としてグレゴリオ聖歌とルネサンス音楽の演奏を続ける。CDアルバムではジョスカン・デ・プレのミサ曲全集シリーズを好評リリース中。また声楽と器楽による「古楽アンサンブル コントラポント」のリーダーとして、主にバロック時代の宗教音楽演奏に取り組み、2016年にはOttava Recordsレーベル第1弾としてモンテヴェルディ「聖母の夕べの祈り」のライブ録音をリリースする。2015年より長野県の新井村で「はらむら古楽祭」を企画開催、指揮者またオルガン、チェンバロ奏者として演奏会を行う。フランス・バロック宗教音楽を専門とする「合唱団フォンス・フローリス」指揮者、また様々な古楽アンサンブルの指揮、指導を行う。「フォンス・フローリス古楽院」院長、国立音楽大学講師。

渡辺研一郎

1990年生まれ。早稲田大学政治経済学部経済学科卒業。東京藝術大学院音楽研究科修士課程音楽学専攻修了。グレゴリオ聖歌の初期の記譜法である「譜線無しネウマ」の研究論文により修士号(音楽)取得。ピアノを小倉郁子、志村泉、林苑子、E. D. ヴァイスハールら、クラヴィコードを高橋尚子、合唱指導法を笠置英史、グレゴリオ聖歌やポリフォニーといった中世・ルネサンス期の教会音楽を花井哲郎、声楽を花井尚美の各氏に師事。アルベルヌニューゲントコール、立教トリニティコール、行徳混声合唱団、常任ピアニスト。日本合唱協会(室内合唱団「日唱」)ピアニスト。ヴォーカル・アンサンブル カペラ、メンバー。日本グレゴリオ聖歌学会員。

櫻井元希

広島大学教育学部第四類音楽文化系コース、東京藝術大学音楽学部声楽科を卒業。同大学院古楽科をバロック声楽で修了。声楽を枝川一也、益田遙、河野克典、寺谷千枝子、櫻田亮の各氏に、バロック声楽を野々下由香里氏に、合唱指揮をアレクサンダー・ナジ氏に、指揮を今村能氏に、古楽演奏を花井哲郎氏に、ヴォイストレーニングをVocology in Practiceの小久保よしあき氏に師事。これまでに、ヘンデル「メサイア」バッハ「口短調ミサ」「教会カンタータ」「マタイ受難曲」モーツァルト「レクイエム」などのソリストを務める。Salicus Kammerchor、Ensemble Salicusを主宰。フォンス・フローリス古楽院講師。東京藝術大学バッハカンタータクラブ2013-2015年度演奏委員長。ヴォーカル・アンサンブル アラミレ、リーダー。The Cygnus Vocal Octet、ジャパンチェンバークワイア、ヴォーカル・アンサンブル カペラ、古楽アンサンブル コントラポント等に所属。

関根敏子

音楽学、音楽評論家。NHK-FM番組「古楽の楽しみ」パーソナリティ。桐朋学園大学音楽学部作曲理論学科(音楽学)卒業後、フランス政府給費留学生としてフランス国立バリ高等音楽院(バリ・コンセルヴァトワール)に学ぶ。またチェンバロをスコット・ロス、トン・コーブマン他の各氏に師事。帰国後、桐朋学園大学・早稲田大学・立教大学・昭和音楽大学・東洋大学各講師を歴任。音楽文献目録委員会事務局長。その他、新聞雑誌の評論など。NHK-FM番組「古楽の楽しみ」パーソナリティ。主要な著訳書に『古楽演奏の現在』(監修)、『西洋の音楽と社会:後期バロック』(監訳、2巻)、『ドメニコ・スカラッティ』[いずれも音楽之友社]、A. ヘリオット著『カストラートの世界』(国書刊行会、共訳)、ドメル・ディエニー著『演奏家のための和声分析と解釈:フォーレ』(シンフォニア、翻訳)、フランス古地図散歩(連載中、之潮)、『21世紀の音楽入門1- 7』(共著、教育芸術社)、リスト著「ショパン」(訳)他、多数。

辻康介

歌手・音楽家としてソルミゼーションの研究を行い、東京・名古屋・仙台・大阪で定期講座を長らく開講している。2016年からは聖グレゴリオの家でもソルミゼーションの講師を務めている。また、日本合唱指揮者協会、日本合唱連盟、日本コダーイ協会、西洋中世学会、日本音楽学会などで講座・講演を行ったほか、愛知県立芸術大学のソルフェージュ科教員、千葉県・福島県立高校教員の教育研究会などに講師として招かれた。97年から4年ほどイタリアに渡り声楽や演奏論を学んだが、2017年10月より再びイタリアに在住、ロベルト・バルコーニに声楽を、ディエゴ・フラテッリにルネサンス・ポリフォニーの演奏法を師事し研究を深めている。これまでに「ネーモー・コンチェルトnemo concertato」「ビスメロVis Melodica」「南蛮ムジカ」など様々な演奏グループを立ち上げ独自の活動を行った。ソルミゼーション講座受講生による合唱団Ogmiosの指揮者。聖心女子大学グリークラブ常任指揮者。国立音楽大学楽理科卒、同大学研究所研修課程終了、声楽を牧野正人、クラウディオ・カヴィーナらに師事。

夏山美加恵

名古屋市立菊里高校音楽科卒業後、エリザベト音楽大学宗教音楽学科にて故鈴木仁氏に声楽を師事。第6回山梨古楽コンクール第3位入賞。同年オランダに渡り、ブラバント音楽院にて古楽声楽アンサンブルの訓練を受ける。その後デン・ハーグ王立音楽院古楽科古楽声楽コースに入学。音楽院卒業後、同校修士課程修了。王立音楽院在学中より中世音楽への意欲が高まり、欧州における著名音楽家による中世音楽のクラスや講習会を受講し、さらに研鑽を積む。オランダ国内外の多くの古楽アンサンブルと共演し、ユトレヒト、ブルージュ、ベルリン等の古楽祭にも多数参加。また12年間にわたってオランダのカトリック教会のカントルとして勤務した経験を持つ。現在もソロやアンサンブル歌手として中世からバロック時代の古楽作品、さらに現代音楽にいたるまで幅広いレパートリーで演奏活動を行う傍ら、古楽声楽アンサンブルの指導にも積極的に取り組んでいる。

富本泰成

東京芸術大学音楽学部声楽科を卒業。声楽を菅英三子、上杉清仁、川上茂、赤沢啓子の各氏に師事。大学卒業後は発声という運動をより科学的・解剖学的な視点から考えるために、さまざまなメソッドから学ぶ。Vocology in Practiceの小久保よしあき氏、Estill Voice Trainingの稲幸恵氏、ヴォイトレ・マスター® メソッドのMasayo Yamashita氏に発声を師事。古楽演奏を花井哲郎氏、アカペラ・アンサンブルのハーモニー理論を犬飼将博氏に師事。2009年に創立された合唱団、harmonia ensembleの団員として、2011年に行われた第40回トゥール国際合唱コンクール(フランス)にてグランプリを受賞、以降、2012年ヨーロッパグランプリ(スロヴェニア)、2013年南フランス国際合唱フェスティバル(フランス)、2014年第10回世界合唱シンポジウム(韓国)などに出場し、数多くの合唱経験を積む。その経験からアカペラのアンサンブルの演奏活動に特に力を入れており、ハーモニーの理論と科学的な発声アプローチを取り入れた「ヴォーカルアンサンブル歌譜喜(混声)」「女声アンサンブル八重桜(女声)」の2つの声楽アンサンブルを主宰している。

講座案内

いずれの講座も先着順に受け付け、定員に達し次第、募集を締め切ります。

歌唱実践講座は2020年2月11日(火・祝)のフォンス・フローリス発表会で演奏発表します。
(集中講座、発声講座、音楽史講義は発表なし)。

*春期集中講座

初めてのグレゴリオ聖歌

講師: 花井哲郎

Gs

3月9日(土)9:30-12:00

3月16日(土)9:30-12:00

受講料2回で8,000円(学生: 4,000円)

1日のみの場合 4,000円(学生: 2,000円)

単旋律の聖歌「グレゴリオ聖歌」は、西洋音楽の源泉、宗教的な典礼のための音楽であるだけでなく、芸術性の高い歌曲でもあります。この講座では、全くの初心者のために四線の四角譜の読み方、教会旋法、ラテン語の発音、典礼の形式などから始め、グレゴリオ聖歌の基本を学び、聖歌を何曲か歌ってみます。またザンクト・ガレン修道院の写本に記された10世紀の楽譜である古ネウマも簡単に説明します。どなたでも受講できます。

*この2講座はすべて連続して受講されることをお勧めします。ポリフォニーの理解にグレゴリオ聖歌は必須です。しかしご都合によりどれか1回のみ、あるいはご自由に組み合わせでの受講も可能です。2回連続の講座ですが、2回目には初日の復習も行います。

初めてのルネサンス音楽

講師: 花井哲郎

Rs

3月9日(土)13:00-16:00

3月16日(土)13:00-16:00

受講料2回で10,000円(学生: 5,000円)

1日のみの場合5,000円(学生: 2,500円)

15~16世紀の音楽は、オリジナルの写本ではすべて計量記譜法によって記されています。現代の楽譜とは異なっていて、その解説はルネサンス音楽の理解に欠かせません。この集中講座では、計量記譜法の基礎から始めて、簡単なポリフォニーの楽曲を大判楽譜「クワイヤブック」を使って歌うまでを目指します。合唱の心得がある方なら、どなたでも受講できます。

ソルミゼーション入門

講師: 辻康介

S

土曜

5月19日(日)、6月2日(日)14:00-17:00

全2回 受講料10,000円(学生: 5,000円)

ソルミゼーションは「シ」がないドレミファソラの六音階による階名唱です。グイード・ダレツォにより11世紀に考案されて以来18世紀末にいたるまで使われ、デュファイやジョスカンはもちろん、モンテヴェルディやJ. S. バッハもこの六音階名で歌っていました。この講座でソルミゼーションの基礎を身につけると、先生や鍵盤楽器の助けなしで自分で楽譜が読めるようになり、音程が正確になり、歌ごころが刺激され、歌が上手になります。ムジカ・フィクタなど合唱団や声楽アンサンブルの悩みも解けます。ソルミゼーションで歌うことで、旋法も楽しく学べ、旋法的な節回しも明確につかめるようになります。また、頑固で言葉数の少ない師匠のようなオリジナル楽譜はソルミゼーションで歌いかけると、すべてを教えてくれる優しい先生に変わります。ソルミゼーションは古の調べを解き明かし、「譜読み・音取り」の苦しみを「歌う」喜びに変えてくれる魔法の笛です。

初めての中世音楽

講師: 夏山美加恵

Ms

3月17日(日)13:00-17:00

1回 受講料 5,000円(学生: 2,500円)

12世紀から14世紀の中世時代のフランスで歌がどのように歌われ、発展していったかを時代を追って紹介していきます。北フランスのトルヴェールの素朴な歌やモンペリエ写本、アルス・アンティクワ、アルス・ノーヴァのモテット、シャンソンなどを、オリジナルの写本を見ながら音を出してみましょう。そして言葉の扱い方、様式、音の響きがどのように変わっていったかなどを学びます。歌の経験のある方で中世音楽が好き、または中世に興味はあるけれども初めてという方もどうぞ。通年講座「中世の音楽を歌う」への導入編でもあります。この講座のみの受講も可能です。

*通年の入門講座

グレゴリオ聖歌入門

講師: 渡辺研一郎

(5月、10月、11月30日は花井哲郎)

Gn

土曜10:00-12:30

4月6日 5月11日 6月15日 7月20日

9月28日 10月5日 11月9日 11月30日

2020年1月11日 2月8日 発表会:2月11日

全10回と発表会

受講料 30,000円(学生: 20,000円)

グレゴリオ聖歌をその基本から体系的に学んでいく、初心者のための講座です。実際にいろいろな曲を歌うことによって、その響きから聖歌に親しみます。前期は様々な種類の聖歌を教会旋法を理解しながら少しずつ一通り歌ってみます。聖歌は10世紀頃からネウマと呼ばれる楽譜に記されるようになり、当時の聖歌隊が言葉の意味と抑揚を生かしながら表情豊かに歌っていたことが、このネウマからうかがい知れます。後期はザンクト・ガレン修道院の写本に記された10世紀の楽譜である古ネウマを参考にしながら、聖歌の演奏法を学びます。歌唱・合唱などの経験のある方ならどなたでも受講できます。

ルネサンス音楽入門

講師: 櫻井元希

(5月、10月、11月30日は花井哲郎)

Rn

土曜13:30-16:00

4月6日 5月11日 6月15日 7月20日

9月28日 10月5日 11月9日 11月30日

2020年1月11日 2月8日 発表会:2月11日

全10回と発表会

受講料 30,000円(学生: 20,000円)

ルネサンス音楽を、当時の楽譜で使われていた白色計量記譜法で歌う、初心者のための入門講座です。合唱団などでルネサンスの音楽は歌ったことはあるが、オリジナルの楽譜は使ったことのない方、古い音楽のア・カペラのアンサンブルは初めての方など歓迎です。教材としてハインリヒ・イザーク Heinrich Isaac (ca.1450-1517) のミサ固有唱を集めた一大曲集コーラリス・コンスタンティヌスから数曲選んで練習します。イザーク作品の元になったグレゴリオ聖歌をグレゴリオ聖歌入門 (Gn) で扱いますので、併せて受講されることをお勧めします。歌唱・合唱などの経験のある方ならどなたでも受講できます。





*通年の歌唱実践講座

グレゴリオ聖歌演奏法

講師:花井哲郎
(5、10、12月は渡辺研一郎)

G

土曜10:00-12:15
4月13日 5月18日 6月8日 7月6日
8月31日 10月19日 11月16日 12月7日
2020年1月18日 2月1日 発表会:2月11日
全10回と発表会
受講料 35,000円(学生:25,000円)

この講座では今年度はさまざまなミサ固有唱を、それぞれのジャンルごとの特徴を理解しながら学んでいきます。特に奉納唱Offertoriumなど複雑な聖歌を、その構造を理解しながら深めたいと思います。古ネウマが細部に至るまで演奏のヒントを与えてくれます。それを手がかりに美しく歌えるように練習していきたいと思います。グレゴリオ聖歌とネウマの基本を習得した方が対象です。

中世の音楽

講師: 夏山美加恵

M

日曜14:00-17:00
4月14日 6月9日 6月30日 7月21日
8月11日 9月8日 10月6日 11月10日
2020年1月26日 2月9日 発表会:2月11日
全10回と発表会
受講料 45,000円(学生:30,000円)

10回にわたって中世音楽、特に12世紀北フランスの吟遊詩人の音楽から14世紀のシャンソンまでの発展を宗教曲や世俗曲を単旋律、多声作品をオリジナルの写本を見て歌いながら学びます。発声にも注意を置きながら、詩と音のつながりや言葉のニュアンスが様式にどのように生かされているかなども体験してみましょう。歌の経験のある中世音楽好きの人集まれまた、中世の歌に興味のある器楽の方も楽器ご持参でご参加歓迎です。入門講座を受けられなかった方も受講できます。

練習予定曲:
トルヴェール歌曲(アダン・ド・ラ・アル Adam de la Halle)
アルス・アンティクワ(モンペリエ写本 Codex Montpellier)
アルス・ノーヴァ(マジョー Guillaume de Machaut)
など

*ルネサンス音楽を計量記譜で歌う講座

ルネサンス音楽1 美しい聖母モテットを楽しむ

講師:花井哲郎
(5、10、12月は櫻井元希)

R1

土曜13:00-16:00
4月13日 5月18日 6月8日 7月6日
8月31日 10月19日 11月16日 12月7日
2020年1月18日 2月1日 発表会:2月11日
全10回と発表会
受講料 45,000円(学生:30,000円)

ジョスカン・デ・プレ Josquin des Prez (ca.1450/55?-1521) とニコラ・ゴンベール Nicolas Gombert (ca.1495-ca.1560) の歌いやすく、美しい聖母への祈りのモテットを何曲か練習します。計量記譜法によるクワイヤブックを用い、少人数による美しいアンサンブル演奏の実現を目指します。記譜法の基本を習得された方が対象ですが初めての方で、受講ご希望の方は、春期講習をあらかじめ受講されるか、あるいは事前個人レッスンをお申し込みください。

ルネサンス音楽2 フランドルの対位法を極める

講師: 花井哲郎

R2

土曜13:00-16:00
4月27日 5月25日 6月22日 7月27日
9月28日 10月19日 11月23日 12月21日
2020年1月25日 2月8日 発表会:2月11日
全10回と発表会
受講料 45,000円(学生:30,000円)

15世紀フランドル出身の音楽家たちはいろいろな形態のカノンなどを駆使して、対位法的に複雑な作りの多声音楽ポリフォニー楽曲を作り上げました。しかしながら巨匠による作品はそのような複雑さを全く感じさせないほど自然で美しい音楽となるのが不思議です。なかでもジャン・ド(あるいはヨハンネス)・オケゲム Jean de Ockeghem (ca. 1425 - 1497) はその筆頭で、続く作曲家たちの模範ともなりました。この講座ではオケゲムのミサ・プロラツィオーヌMissa Prolationumを教材としてその構造を学び、さらに美しく歌えるように練習していきます。知的な理解を深めながらルネサンス音楽の緻密なアンサンブルを目指します。

*発声講座

合唱のための発声法

講師: 富本泰成

V

「合唱のための発声法・発声理論」
火曜日 前期 4月16日 5月21日 6月18日 7月9日 8月27日
後期 9月10日 10月8日 11月5日 12月3日 2020年1月14日
金曜日 前期 4月12日 5月17日 6月14日 7月5日 8月2日
後期 9月6日 10月4日 11月1日 12月6日 2020年1月10日
レッスン時間帯:火曜 14:00-21:00、あるいは金曜 14:00-21:00(ご希望の曜日、時間を選べます)
受講料(全10回/一人につき)個人 50,000円、2人 40,000円、3人 30,000円(前期後期の分割納入可)

歌を歌う人にとって発声の悩みはつきものです。この講座ではヴォーカル・アンサンブル カペラをはじめとして、複数の声楽アンサンブルで演奏活動を行なっている講師が、声のお悩みの原因を「呼吸」「声帯の動き」「共鳴」の三つの要素から細かく探ります。全10回の講座で、やわらかくも芯のある、合唱やアンサンブルに適した発声を探っていきましょう。また、共鳴腔を自在に扱い、様々な音色の声を出せるようにトレーニングを積みましょう。お一人での受講は充実したボイストレーニングを行えますし、数名のグループでの受講は音色面を中心にアプローチし、周りの人と声が「合う」ということを強く実感できるよう進めていきます。

*音楽史講義

音楽史講義「ジョスカンの生涯と作品 その一」 講師: 花井哲郎

土曜10:00-12:00

4月27日 6月22日 7月27日 9月28日 10月19日 11月23日 12月21日 2020年1月25日

全8回 受講料 25,000円(学生:13,000円)

2021年に没後500年を迎えるフランドルの巨匠ジョスカン・デ・プレJosquin des Prez (ca.1450/55?-1521) の生涯をたどりながら、その全作品について解説する講義です。記念の年まで3年間かけてじっくりジョスカンを学んでいきたいと思います。ヴォーカル・アンサンブル カペラはジョスカンの宗教作品の大部分をこれまでに演奏してきていますが、その録音などを聴きながら、オリジナルの写本を参照し、また歌詞を読み解いて、各曲の面白さ、聞きどころ、作品の背景などを解説していきます。毎回必要な資料を配付します。

講座「フランス・バロック・オペラを極める」 講師: 関根敏子

土曜 19:00-21:00 5月11日 6月8日 7月6日 9月28日 10月19日 11月16日

受講料(茶菓代含む)1回ごと 4,000円(学生:2,800円) 全6回通し 20,000円(学生:14,000円)

西洋音楽史のなかでもとりわけ特徴的な「フランス・バロック音楽」の魅力あふれる世界について、スペシャリストがフランス音楽界の旬な話題なども織り交ぜながらお話す楽しい連続講座です!本年度はフランス・バロックのオペラを理解する上で重要なポイントを学びます。同時代のイタリア・オペラと大きく違うのは、カストラートが登場しないこと、フランス語の韻律との関係が深いこと、合唱やオーケストラが重視されていること、そして何よりも、バレエの場面が不可欠で重要な部分を占めていることです。毎回オペラを構成する要素ひとつひとつに焦点を当て、さまざまな作品を縦断的に扱い、舞台の映像や楽譜などを参照しながら解説していきます。講義後にはワインや茶菓とともに歓談をお楽しみいただけます。

5月11日	序曲 ~フランス風序曲からコントルダンスへ	9月28日	眠り、嵐、魔女 ~オーケストラ効果
6月 8日	プロローグ ~国王の賛美とダンス	10月19日	ディヴェルティスマン ~本筋と関係のない場面とバレエ
7月 6日	モノローグとアリア ~フランス語の歌	11月16日	フィナーレ ~合唱とバレエ

*特別ワークショップ「計量記譜法の理論と実践」 講師: 花井哲郎

毎月2回程度 火曜 10:00-12:30 初回:3月19日

受講料 1回 2000円 (入会金の必要はありません)

ルネサンス音楽の理解と演奏に欠かせない計量記譜法について、その理論を学びながら様々な作品を歌っていくワークショップです。今年度は特にルネサンス全盛期15世紀末から16世紀にかけての記譜がどのようなものか、またどのように変容していったかを学びます。Karin Paulsmeier 著 Notationskunde 15. und 16. Jahrhundert の後半部分(第2部)に即して進めますが、必ずしもこのドイツ語の著書を読む必要はありません。本をお持ちでない方も参加できるよう、毎回楽譜と資料を配付します。本はAmazonで約9,500円、古楽院での購入ご希望の方はお申し出ください。日程連絡等のため受講登録をして頂き、その上で参加した各回ごとの精算となります。年度の途中からの参加も可能です。どなたでも受講できます。

*夏季合宿

8月16日(金)14:00集合 ~ 18日(日)15:00解散
受講料 20,000円 食事・宿泊費 実費(2泊3日で約20,000円)

長野県原村の静かで美しい森の中にある、響きの良い木造の教会(ハヶ岳中央高原キリスト教会)で、グレゴリオ聖歌とルネサンスのポリフォニーを学び歌う3日間の合宿を行います。都会の喧噪を離れ、じっくりと音楽と向かい合います。今年は単旋律聖歌のほかにオケゲムのサルヴェ・レジーナを練習する予定です。1日の講習の最後はグレゴリオ聖歌の「終課」を歌いしめくります。宿泊は教会近くのペンションで、夜の懇親会では受講生と講師も交えて楽しい親睦の時を持ちます。6月29日(土)13:00-17:00に合宿で扱う曲の事前練習を行います。合宿参加に必須ではありませんが、ご都合のつく方は是非ご参加ください。(受講料 4,000円)

*受講料

※ 入会金 受講にあたり入会金3,000円を申し受けます。東京、名古屋、関西いずれかで初回のみで、その後別の講座を受講する際に再度お支払いいただく必要はありません。

※ 春季集中講座については入会金の必要はありません。また春季集中講座Gs, Rs, Ms受講の方は、通年の本講座の受講に際して、入会金免除となります。

※ 受講料は4回までの分割納入も可能です。(詳細はお問い合わせください。)

*複数受講の割引制度

※ セット割引 通年の講座を複数受講される場合は2講座目から学生料金で受講できます!(春期集中講座、発声講座、合宿は適用外)

※ 夫婦割引 お二人合わせて、一般料金+学生料金で受講できます!(複数受講の場合は残りはすべて学生料金で!)

どれを受講すればよいか迷った場合

* 古楽院は初めてで、とりあえず少しかじってみたい!
▶ 春期集中講座がお手軽!

* グレゴリオ聖歌もルネサンス音楽もまだ全然よくわかってないけど、本格的に取り組んでみたい
▶ 入門講座で基礎を学びましょう

* 計量記譜法は初めてだけど、ぜひ通年講座で歌いたい!
▶ 春期集中講座も併せて受講! ※春期講座に出られない方はご相談ください

* 古楽院は初めてじゃないけど、もう一度基礎からやり直したい
▶ 入門講座で復習しましょう

* あまり歌ったことがなく、声に自信がない…
▶ まずは発声講座

* 歌わないけど音楽の勉強はしたい!
▶ 音楽史講義でじっくり学びましょう

* 音楽も好きだけど、おいしいワインも飲んで楽しみたい(*^_^*)
▶ 講座「フランス・バロックの舞踏」



日程一覧(2019年3月～2020年2月)

講座・講義名	日時		回数	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月
Gs: 初めてのグレゴリオ聖歌	日	9:30-12:00	2	9/16											
Rs: 初めてのルネサンス音楽	土	13:00-16:00	2	9/16											
S: ソルミゼーション入門	土	14:00-17:00	2			19	2								
Ms: 初めての中世音楽	日	13:00-17:00	1	17											
Gn: グレゴリオ聖歌入門	土	10:00-12:30	10		6	11	15	20		28	5	9/30		11	8
Rn: ルネサンス音楽入門	土	13:30-16:00	10		6	11	15	20		28	5	9/30		11	8
G: グレゴリオ聖歌演奏法	土	10:00-12:15	10		13	18	8	6	31		19	16	7	18	1
R1: 美しい聖母モテットを楽しむ	土	13:00-16:00	10		13	18	8	6	31		19	16	7	18	1
R2: フランドルの対位法を極める	土	13:00-16:00	10		27	25	22	27		28	19	23	21	25	8
M: 中世の音楽	日	14:00-17:00	10		14		9/30	21	11	8	6	10		26	9
L: 音楽史講義 「ジョスカンの生涯と作品 その一」	土	10:00-12:00	8		27		22	27		28	19	23	21	25	
FB: 講座 「フランス・バロック・オペラを極める」	土	19:00-21:00	6			11	8	6		28	19	16			
V:合唱のための発声法	火	14:00-21:00	10		16	21	18	9	27	10	8	5	3	14	
	金	14:00-21:00	10		12	17	14	5	2	6	4	1	6	10	

*専門家のための特別講座

古楽院講座とは別に花井哲郎による専門家のための講座が毎月行われています。興味のある方は古楽院までお問い合わせください。

計歌会

古楽演奏家、あるいは古楽に関心のある音楽家のための講座です。ルネサンス時代のさまざまな音楽を計量記譜の楽譜で歌っています。

FF古楽道場

主に音楽大学声楽科学生、あるいは卒業して間もない若手音楽家のための講座です。グレゴリオ聖歌を学び、ルネサンス時代のさまざまな音楽を計量記譜の楽譜で歌っています。

フォンス・フローリス古楽院 2019年度東京講座申し込み書

申し込みにあたっては、下の申し込み必要事項を、ファックス・電子メール・電話などでおしらせください。折り返し申し込み受付の確認と、受講の支払い方法など詳細をご連絡いたします。
定員に達し次第、募集を締め切らせていただきます。本申し込み書は、控えとしてお手元に保管をお願いいたします。

申し込み・お問い合わせ先 窪田 phone/fax 04-7140-7225 mobile 080-5099-3751
m-kubota@fonsfloris.com

希望される講座/講義および内容をチェックして下さい 申し込み日 201__年 __月__日

古楽院講座の受講は ☐初めて ☐過去に受講経験あり (どちらかにチェックしてください)

☐ Gs: 初めてのグレゴリオ聖歌	
☐ Rs: 初めてのルネサンス音楽 (希望パート ☐ ソプラノ ☐ アルト ☐ テノール ☐ バス)	
☐ S: ソルミゼーション入門	☐ Ms: 初めての中世音楽
☐ Gn: グレゴリオ聖歌入門	
☐ Rn: ルネサンス音楽入門 (希望パート ☐ ソプラノ ☐ アルト ☐ テノール ☐ バス)	
☐ G: グレゴリオ聖歌演奏法	
☐ R1: 美しい聖母モテットを楽しむ (希望パート ☐ ソプラノ ☐ アルト ☐ テノール ☐ バス)	
☐ R2: フランドルの対位法を極める (希望パート ☐ ソプラノ ☐ アルト ☐ テノール ☐ バス)	
☐ M: 中世の音楽	☐ FB: 講座「フランス・バロック・オペラを極める」
☐ L: 音楽史講義 「ジョスカンの生涯と作品 その一」	
☐ 特別ワークショップ「計量記譜法の理論と実践」(☐ テキスト購入希望)	
☐ V 合唱のための発声法 ☐ グルーブレッスン希望(☐ 2人 / ☐ 3人)備考欄に氏名をご記入ください ☐ 個人レッスン希望 第一希望 ☐ 火 / ☐ 金 希望時間帯 ~ (各曜日の時間帯でご記入ください) 第一希望 ☐ 火 / ☐ 金 希望時間帯 ~ (各曜日の時間帯でご記入ください)	
☐ 夏期合宿	

お名前 _____

ご住所 〒 _____

電話番号 _____ファックス _____

備考欄 (簡単に音楽歴を記入してください。)